

修学旅行新聞

発行所 財団法人全国修学旅行研究協会
全国修学旅行研究協会
〒101 東京都千代田区西神田2-8-7 (幅比ル)
03 (3262) 2426・2932
振替 (東京) 6-36337

春の修学旅行 シーズン開幕

4月13日 東京駅で 専用列車の出発式

本年度第一陣が京都へ

春の修学旅行シーズンに入り、四月早々から東北・甲信越の小・中学生を中心に、修学旅行の実施がスタートした。
今年度は、JRグループのダイヤ改正により、東海道・山陽新幹線に「のぞみ」号が増発され、修学旅行専用列車の時間帯も変更されたものが多い。
四月十三日朝、関東地区中学校連合の専用列車本年度第一陣のスタートを記念

われらの信条

- ★ われわれは教育を熱愛し、友愛と信義を基盤とする同志的組織のもとに団結する
- ★ われわれは全修協協会の精神にのっとり、公益法人として、児童生徒の幸福のために挺身する
- ★ われわれは修学旅行の改善向上に邁進し、我が国の教育振興に寄与する

中學校(古賀延毅校長)、同県下都賀郡大立町立大平南中學校(小川正男校長)の四校千八百八十三人の代表者と、全修協、JR東海の関係者が参集した。全修協の前田寛理事・総局長、関修委の清水会長及び生徒代表のあいさつの後、四校の生徒代表からJR東海の赤木昭夫新幹線鉄道事業本部営業課長、山本圭一運転士、長田敏夫車掌長、小宮山和訓東京駅長に花束が贈呈された。続いて小宮山駅長が答礼のあいさつを行い、赤木課長から記念品として東海道・山陽新幹線の折りた

して、財団法人全国修学旅行研究協会(山本種一理事長)は、東海道新幹線東京駅十五番線において、恒例の出発式を行った。
ホームの中央に、この列車で関西に向かう関東地区公立中學校修学旅行委員会(清水章夫会長・前浦和立常盤中學校長)加盟の、茨城県土浦市立土浦第一中學校(下条秀雄校長、同土浦第六中學校(渡辺千秋校長)、栃木県宇都宮市立清原

たみ式時刻表が生徒全員にプレゼントされた。
八時二十一分、関係者や



生徒代表からJR東海関係者に花束を

報道陣多数に見送られ、修学旅行専用列車ひかり六〇三七号は京都へ向けて出発した。
関東地区公立中學校修学旅行委員会は、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉の五県で構成し、在来線「わかさぎ」号時代から計画輸送を行って、本年は三十年目を迎えた。当時の修学旅行生を親

に持つ生徒が、今年も大勢関西に向かっており、二世代にわたる計画輸送が新幹線に引き継がれて行われている。本年度計画は八百五十七万人、うち関西方面は七百八十三校、十六万五千人である。

関東地方一都六県の中学校修学旅行連合会参加者は三十数万人、このうち約半数が関修委五県の参加者となっている。
~~~~~  
(生徒代表あいさつ、花束贈呈者氏名は2面に掲載)

### 神奈川県立高が航空機 利用の修学旅行を開始

昨年秋の東京都立高等学校に続いて、神奈川県立の高等学校も航空機利用の修学旅行が可能となり、先月は三校が東京・羽田空港を利用した。  
四月二十日に航空機を利用したのは県立商工高校機械科・情報科の百六十名。九時五十五分発の全日空55便で四国松山へ旅立った。  
本年度中に公立高約三十校が、修学旅行で航空機を



羽田空港を出発の商工高生

ともかく、荒れ放題の森林が各地に見られる。人手不足もあるが、立木は相続税の課税対象となり、更に輸入材に押されて将来の商品価値は全くお先真っ暗の状況であることが原因である。  
列島改造が進み、山林は住宅地やレジャー施設造成の対象となる。鎌倉の瑞泉寺から建長寺への尾根筋も、裏側はずきままでゴルフ場や住宅地が迫り、昔の面影はない。また、かつて水害防止の保安林として育てた立木も、河川改修の際には粗大ゴミとして処分されて、緑はどんどん失われて行く。  
酸性雨、大気汚染、乱開発で世界の森林資源は危機にさらされている。限りある資源を大切にしよう、ゴミの減量、植木の体験学習導入などで、国土緑化、水質保全に協力したい。

### 風紋

「滝の音はたえて久しくなりぬれど、名こそ流れてなほ聞えけれ」(藤原公任) 嵯峨天皇ゆかりの大覚寺に、名古曾(なごそ)の滝がよみがえるという。六年間の調査で、滝口から溜った水が溜り水となって大沢池に注ぐことが分かり、三か年計画で復元しようとするのだ。公任(九六六-一〇四一)が訪れたとき、既に水は涸れていたのだが、千余年も前の王朝の雅(みやび)の復活は、この四月、嵯峨野めぐりの起点野宮神社の黒木鳥居が、クヌギの原木に建て替った。腐りやすいの原木の不足から、やむを得ずコンクリート造りだったが、防腐剤や木工技術の進歩で、天然木に替えることができたという。嵯峨天皇皇女の斎(いつき)跡といわれ、源氏物語由緒の地でもある野宮に再び王朝のロマンが戻ったと言われている。▼渡月橋上流の大堰川に渡し舟が復活した。亀山公園登り口と大慈閣の麓を結ぶもので、両岸の探勝に便利になったと人気を呼んでいる。さわやかな風、きらきら光る水面、滴るような若葉の嵐山・小倉山を眺めながらの乗船は、わずか十分だが、なかなか風情がある▼嵐山・嵯峨野は、古都の修学旅行の行先ベスト3に入る所だ。十年以上にわたる松と桜の植樹や両岸一帯の清掃活動も行われている。地元の人たちの、こうした多方面の努力にも心を馳せながら、歴史と風光に恵まれた嵐山・嵯峨野のよさを満喫してほしいものだ。(北)

### 主張

#### 「みどりの日」に思う

広報委員 中島 和友

大型連休は「みどりの日」に始まり、「こどもの日」で終わった。修学旅行もその間は一休み、連休後が春の最盛期となる。

「みどりの日」に先がけて、四月二十五日には沖縄県で全国植樹祭が開催された。この祭典はほぼ全国を一巡し第四十四回目を数えるが、初めころの国土緑化推進から次第にセレモニーの色が濃くなってきているのではなからうか。昨年福岡では、植樹祭会場造成のため、数千本の樹木が伐採され、本末転倒が批判された。折角植樹したのに、何年か後に枯れてしまった例もあり、改善が望まれる。

第二次大戦末期の乱伐がたたって、終戦後は毎年、全国各地は水害に見舞

われ、治山治水が叫ばれた。植林は国家百年の大計で行われたが、その後の高度成長、列島改造で第一次産業は軽視される傾向となり、日本の国土三十八万平方キロメートルのうち、約三分の二を占める二十五万平方キロメートルの林野は、影が薄くなりつつある。緑の羽根共同券金も、赤い羽根や白い羽根に比べ、今一つさえない。  
高度成長、生活水準向上に、林産物の需要は後退を余儀なくされた。燃料となり、建材となった木は、石油やセメントにパトンタッチし、生活必需品ではなくなっている。ナラやクスギで自動車を走らせ、松の根から精製した油で軍用機を飛ばせた話は、今の若者には通用しない。また、住宅や学校、

旅館などもコンクリート造りとなった。消防法の規制もあるが、木造の何ともいえないぬくもりが、日本人の心を温かくしていたのだと思えてならない。  
伊勢の遷宮はこの秋に行われる。二十年に一度、木曾の松(ひのき)を使っている行事であるが、そのための植林と廃材の再利用は計画的になされておられ、他の建材では不可能な方法である。燃料にした雑木は成長が早く、伐採後自然に生育し、落ち葉は肥料となつて、農家には不可欠のものであった。しかし、材木となる木は植林が必要で、桐(きり)のように女の子が生まれた時に植えて嫁入りのたすの材料にする成長の早いものを除けば、杉も松も孫、曾孫の代まで育て続けるのが林業の宿命である。今の世の中では気の遠くなることいえる。

農業では、後継者不足や減反政策により、かつての美田が荒廃しているのが目につく。林業でも秋田や京都・北山、宮崎・鉄肥など有名な産地は、

ことば、重要な内容の一つである。地球規模にまで広がる森林資源の現況に目を向けさせ、緑を大切にすることを養

信頼される旅づくり

## 心にあざやかな思い出を ツリーリストの 修学旅行。

近畿日本ツリーリスト

運輸大臣登録一般旅行業第20号 (社)日本旅行業協会会員

### 楽しい修学旅行を、 より安心 より快適に

「学校旅行総合保険」  
をおすすめします。

## 東京海上火災保険株式会社

本店 東京都千代田区丸の内1-2-1 ☎03-3212-6211(代表)



